

ひたる命令書を以て公の深意を知るに足るべし。

申付條々

一、外夷へ對し既に兵端を開き候に付恐れながら御親征遊ばされ石清水へ出御諸國へ降勅して勤王の兵を召し集められ御指揮を以て掃攘仰付けられ將軍も掃攘の事任らせられ度事

一、皇太子を立てさせられ堂上方の内にて人才御選抜御補佐仰付けられ度事中山忠光卿御補佐の任然るべく候立太子の式は盛典を以て行はせられ度其の失費は獻金致すべき事

一、遠勅の幕吏及び諸侯押して上京候は、再三教諭を加へ若し理不盡申出候は、勤王の諸藩申談勅命を乞ふて天誅を加へ候様致され度若し同志の諸藩無之候は、我藩一手を以ても御親兵相勤むべき事

右之條々大意の處申渡し候條兼て我等父子志に於ては朝廷への忠節相立候へば幕府への信義祖先への孝道も隨て相立候儀と存候趣委曲承知の通りに付其旨に相叶ひ候筋に候は、右三ヶ條の外にても監物申談取計ふべし若し在京の

家來沙汰に反くものあらば切腹申付くべし

文久三年六月十八日

定 廣印
慶 親印

益田 彈 正殿

慶親公京師の報告を聞き到底姑息の手段を以て國論を統一すべからずと爲し大鐵案を茲に下さんと即ち如上の天命を老臣に授け朝廷に奏上する處あらしめんとす其の深慮のある處實に天下の明君として仰がるゝも亦道理ならずや。

長藩の攘夷斷行竝に之に對する賞懲は朝廷と幕府相齟齬し之より長藩は頗る逆境に立つに至る然れども其の間更らに數回の海戦は馬關に於て演せらるゝを見よ

防長遺芳

上編 終

43765



明治四十年十月廿八日印刷
明治四十年十一月五日發行

定價金壹圓六拾錢

著者 野原祐三郎

山口縣下關市四南部町
第四百四十四番地

發行人 桂梅吉

山口縣山口町米屋町

印刷人 金子久太郎

神戶市湊町二丁目
二十六番地

發行所 桂山陽堂書店

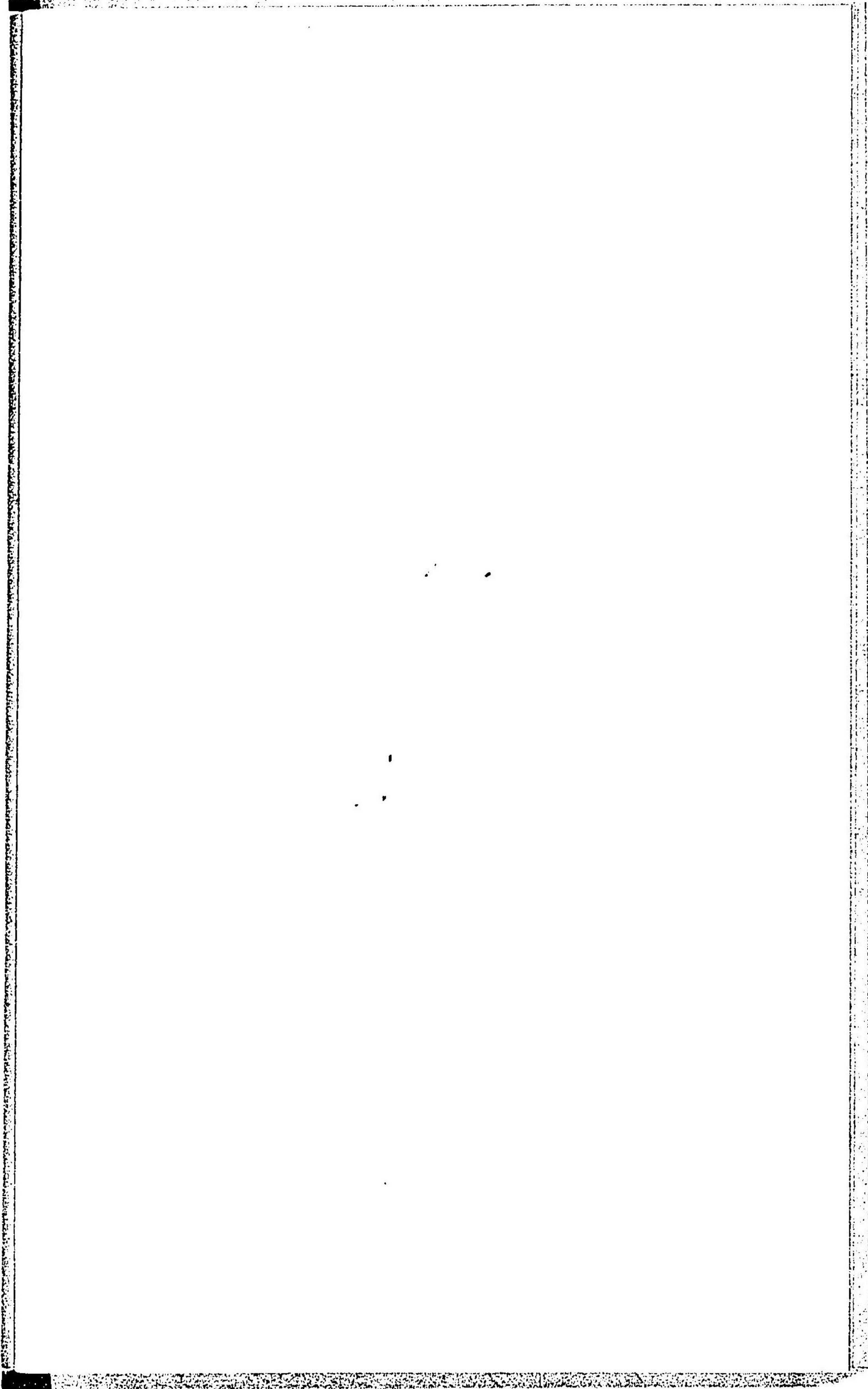
山口縣山口町米屋町

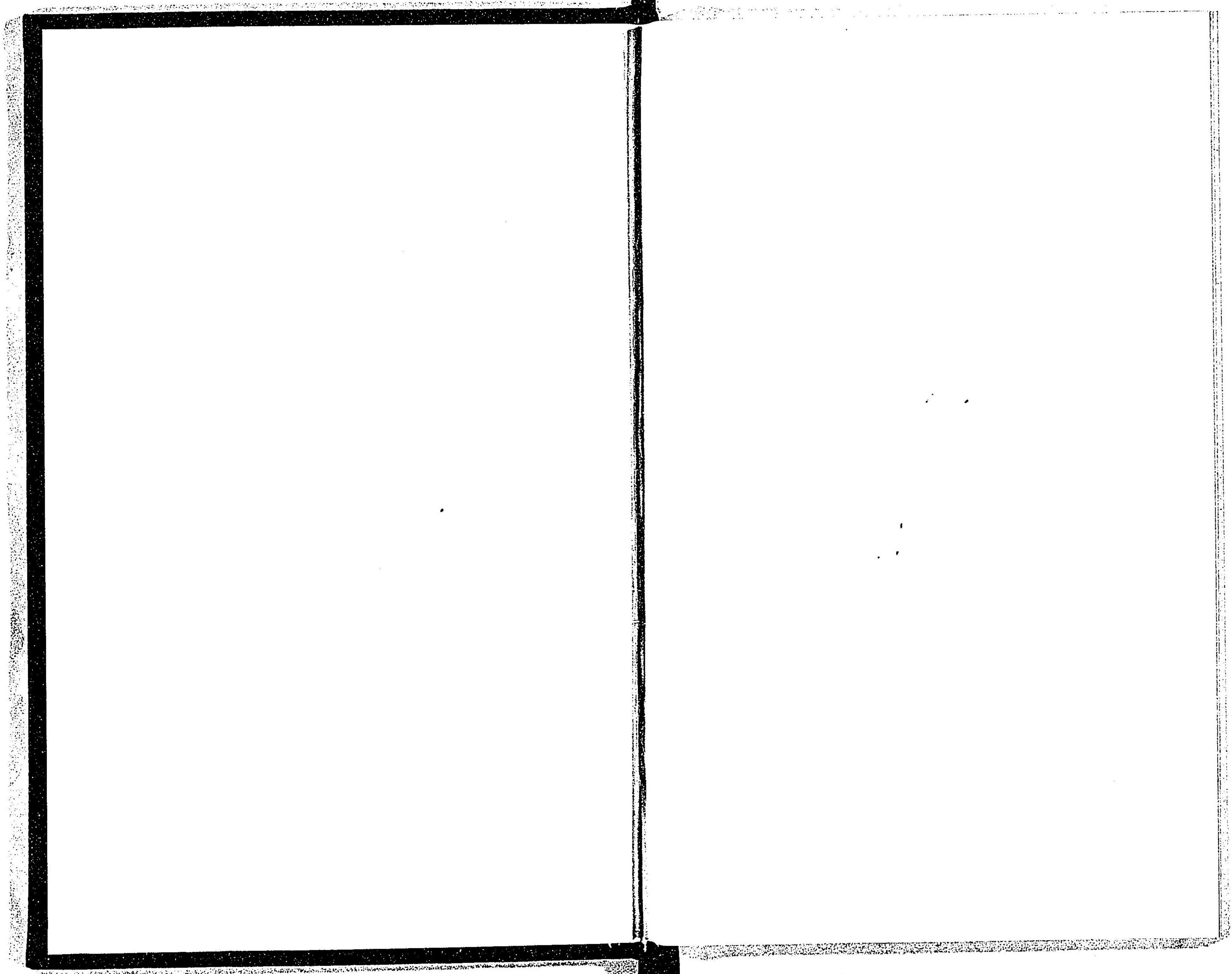
印刷所 金子印刷所

神戶市湊町二丁目
二十六番地

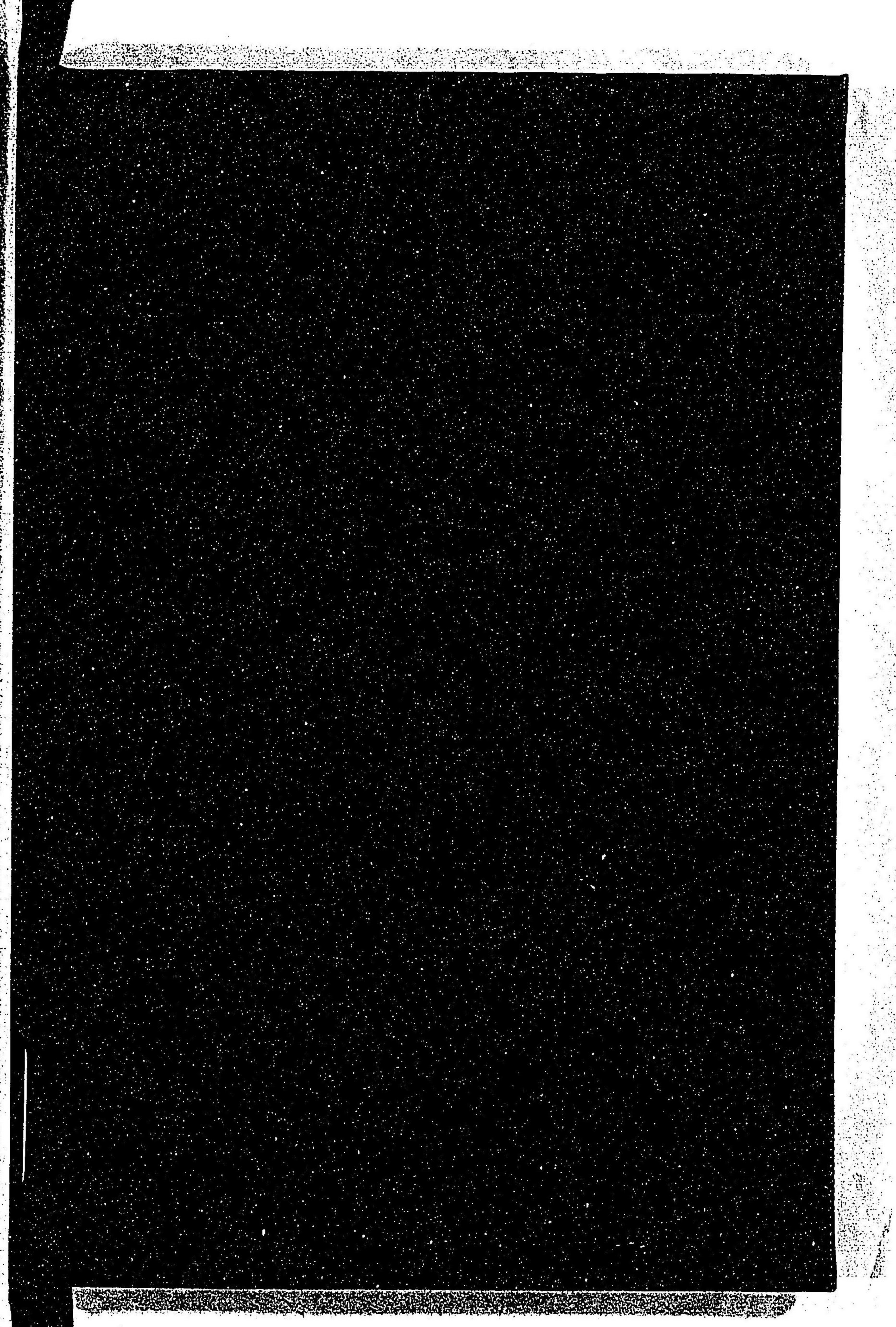
會社名

243765





Handwritten text in the right margin, oriented vertically. The text is faint and difficult to read, but appears to be a list or index of items.



76

343

025987-001-2

76-343

防長遺芳

野原 祐三郎/著

1冊(上359p)

M40, 43

ADC-3574



